

〔行事報告〕

「流体若手夏の学校2004 - 計算機と流体 - 」 の報告

*電気通信大学 知能機械工学専攻, 夏の学校 2004 幹事 高橋直也†

本年度の「流体若手夏の学校」は、9月15日(水)から17日(金)の3日間、電気通信大学知能機械工学科の主催、日本流体力学会の後援のもと、東京都調布市の電気通信大学80周年記念会館で開かれました。今回のテーマとして「計算機と流体」を取り上げ、国立天文台の富阪幸治先生、理化学研究所の青山幸也先生にご講演をお願いしました。

初日は「宇宙流体力学 - 遷音速流, 磁気流体力学, 重力の支配する系のシミュレーション - 」と題して富阪先生による講演からはじまりました。天体物理学における流体力学の応用について講演して頂きました。同じ数値計算をするにしても我々が通常取り扱う対象に比べ、はるかに壮大な時空スケールを取り扱われている点に聴衆一同は圧倒されました。講義中に発せられた天文物理学に関する基本的な質問をもとに議論が白熱することもあり、大変興味深い講義だったように思います。

二日目は理研の青山先生による講演でした。スカラー型計算機は最近の主流の一つであり、特に若手の研究手段として占める位置は高くなっています。そこで「科学技術計算プログラムのチューニング方法の基礎」と題した講演をお願いしました。当日に配布されたテキスト「チューニング技法入門」に基いて実践的な講義が夕方まで行われました。意外に習うことの少ない、効果的な高速化技法も多く盛り込まれており、有益な情報がつままった密度の高い講義でした。

三日目は、自己紹介も兼ねて若手の研究発表が行われました。時間の都合から、発表は博士後

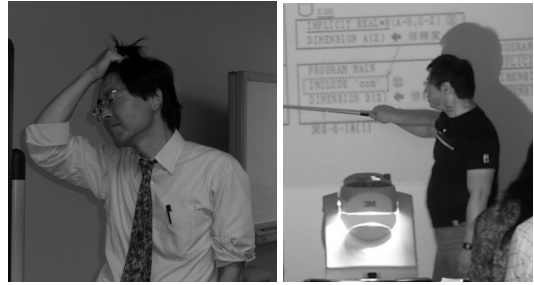


図1 講義風景. 左: 富阪先生, 右: 青山先生.

期課程～ポスドクの方に限られてしまいました。通常の学会よりも開放的な雰囲気からか、議論が活発になされました。幹事として少々残念だったのは、粗雑ながら若さを感じられる発表があまりなかったことです。今後このような場でも失敗を恐れず発表する若手が増えることを、心から期待しています。

本年度の夏の学校を開催するにあたり、非常に多くの方々・団体にお世話になりました。講師のお二方には、講演を快くお引き受けくださいました。講師の青山先生には、テキストの印刷代までご負担頂きました。主催団体として場所を提供して頂いた、電気通信大学 知能機械工学科に感謝いたします。京都大学流体物理学研究室には、wikiサーバーを利用させて頂きました。横山さんはじめとする同志社大学の皆様には、開催にあたり事務処理をお手伝い頂きました。東京大学の斉木さん、京都大学の松本さんには、開催内容について相談にのっていただきました。最後に、この夏の学校が無事終了したことを参加者の皆様に心から御礼申し上げます。

*〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

† E-mail: naoya@mce.ucc.ac.jp